

星を見て方角を知る法

『吾々の足もとから見て、ごちらが北か、南か、東か、西か？』

といふ風に、方角を知ることが、人の日常生活にも大切なことです。殊に、支那や滿洲のやうに、廣い大陸に轉戦してゐる將士や、海洋上を航海する人々には、眞の方角を知ると知らないによつて、生命の安危にも關はることが多いのですから、油斷はなりません。

昔しから知られてゐる通り、方角を知るのに最も便利なものは磁石です。磁石の針は、何時、如何なる所でも南北の方角を指すと言はれてゐます。しかしながら、之れは正しい眞理ではありません。我が日本に於いても、磁石の北極は眞の北方より五度ばかり西へ外れてゐますし、外國でも之れがもつとひごく西や東へ、十度も二十度も三十度も外れてゐる土地は多くあります。それで、正確に方角を知るためには、あらかじめ磁石の偏角を知つてゐるか、又は全く

別の方法に依らなければなりません。

太陽は毎日、「朝東から現はれ、夕暮れに西へ没する」ことも世人の常識となつてゐます。しかし之れもう、つまり早や合點してはなりません。太陽が正しく東から昇り、正しく西に没するのは、一年に只二度、即ち春分の日と、秋分の日だけなのです。其れ以外の日には、日の出や、日の入りの方角は、正しい東や西ではなくて、幾らか北、又は南へ外れてゐます。殊に夏至の日あたりは、日出日没の方角が最もひごく北に外れる日です。之れに反して、冬至の頃は、日出も日没も共に最も著しく南に外れます。但し此うした日出日没の方角も、見る人の緯度によつて違ふのでありまして、赤道あたりでは夏至と冬至とで日の出没の方角が四十七度ぐらゐる違ふのですが、赤道から北や南に土地が移れば移るほど、こうした方角の違ひは、七十度にも、八十度にも、又は百度以上に なります。こんなわけで、決して日出や日没は、うっかり簡単に取り扱はれません。

天體によつて最も正しく方角を定め得るのは北極星による方法です。——何
かの方法で、北極星を見つけ出せば、其れが本統の北の方角なのです。従つて
北さへ分れば、南や、東や、西は直ぐに定められます。

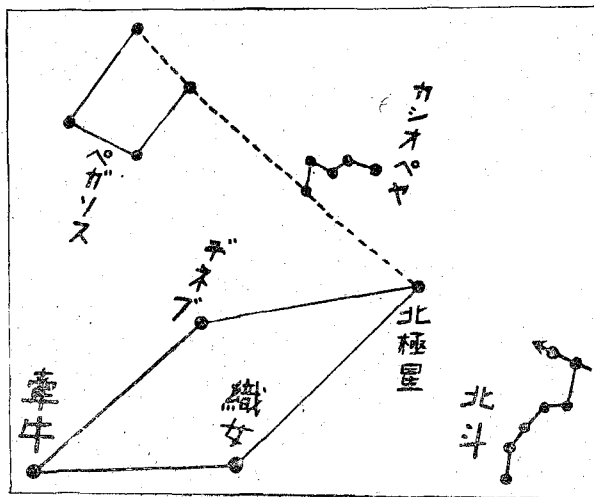
「北極星をどうして捜し當てるか？」——晴れた夜の空に、無數に輝く大星小
星の中から、まちがひ無く北極星を捜し出すことは、初めての人には殆んど不
可能に近いと思はれませう。しかし、幸ひにして、天には北斗七星と呼ぶ有名
な二等星の一行があります。此の北斗の第一星と第二星とを結ぶ線を延ばせば
北極星に突き當ります。一度此の方法を覚えれば、二度と間違はずに、何人も
成功する方法です。之れは小學生たちも皆知つてゐることです。

しかし、稀には、時節や、時刻の都合上、どんなにしても北斗七星が見つか
らないことがあります。例へば、毎年の秋の夕暮れの頃は、我日本や、支那や
歐米あたりの中緯度の土地では、北斗が北の地平線か、又は其れ以下に隠れて
了つて、見えないことがあります。此の場合には北極星が見出せないことも屢

々です。一般の人々は、こうした場合に、途方に暮れて了ひます。しかしながら、平素から星に親しんでゐる人々は、北斗無しにも、北極星を捜し出すことが出来ます。

北斗と「カシオペヤ」星座とは北極の兩側に對立してゐます。それで、北斗のかくれてゐる秋の夕には、カシオペヤが高く頭上に輝やいてゐます。従つて此のカシオペヤから、圖の如く容易に北極星を捜し出すことは出来ます。

又、秋の中天には、有名な「ペガソスの正方形」といふ星々が見えます。此の正方形の東の一邊を北へ二倍ばかり延長すると、カシオペヤ座の西端にあるベ星に來ます。其の線を更に同じ長さだけ



に延ばすと、北極星にまで届きます。

更に今一つの方法は、夏から秋にかけて天を賑はす七夕の夫婦星「牽牛」と「織女」とを利用することです。尚ほ此の二つの星のほかに、隣りの「白鳥」星座の首星「デネブ」を見覚えることです。そうすると、「牽牛」と、「織女」と、「デネブ」と、北極星と——この四つの星が、天上に於いて大きい菱形（又は平行四邊形）になつてゐますから、このうちの三つの星（何れも一等星）を見つけさへすれば、北極星は可なり容易に見つけられます。

ごく嚴密に言へば、北極星も眞の北極にはありませんので、精密な北方は北極星の方向と一致しないことがあります。しかし其れは極めて小さい偏差なので、野外の方角の観測などには、殆んど考慮する必要はありません。——尚ほ詳細は小嶋少將の近著「兵用天文、星で方角を知る法」及び拙著「登山者の天文學」を御覽下さい。

北極星の見えない南半球で、天の南極を見付ける方法も色々ありますが、後に譲ります。（山本一清）